

十和田市現代美術館を中核とした
十和田市文化観光推進拠点計画

十和田市

目 次

1. 実施体制	1
2. 事務の実施体制	2
3. 基本的な方針	3
3-1. 現状分析	3
3-2. 課題	6
3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき 事項及び基本的な方向性	7
3-4. 地域における文化観光の推進への貢献	8
3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環 の創出	9
4. 目標	10
5. 目標の達成状況の評価	17
6. 文化資源保存活用施設	18
6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	18
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	19
6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	20
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	21
7-1. 事業の内容	21
7-2. 特別の措置に関する事項	31
7-3. 必要な資金の額及び調達方法	32
8. 計画期間	34

十和田市現代美術館を中核とした十和田市文化観光推進拠点計画

1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	十和田市現代美術館	所在地	青森県十和田市西二番町 10 番 9 号
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	十和田市	所在地	青森県十和田市西十二番町 6 番 1 号
	代表者	十和田市長 小山田 久		
	地方公共 団体内部 の役割	【主担当部署】 商工観光課（観光振興）、スポーツ・生涯学習課（文化振興）		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人十和田奥入 瀬観光機構	所在地	青森県十和田市稲生町 15 番 3 号
	代表者	理事長 小野田 金司		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者（地域DMO）		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	公益社団法人青森県観光 連盟	所在地	青森県青森市安方一丁目 1 番 40 号
	代表者	理事長 奈良 秀則		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者（地域連携DMO）		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	十和田市商店街連合会	所在地	青森県十和田市西二番町 4 番 11 号
	代表者	会長 細川 與一		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	ナンジョウアンドアソシ エイツグループ	所在地	青森県十和田市大字赤沼字下平 437 番地 9
	代表者	代表者 エヌ・アンド・ エー株式会社 代表取締役 南條 史 生		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者（十和田市現代美術館指定管理者）		

2. 事務の実施体制

十和田市現代美術館の設置者である十和田市（農林商工部商工観光課）と美術館指定管理者ナンジョウアンドアソシエイツグループが事務局となり、計画の進捗管理や改善策を話し合う事務局会議を毎月行う。また、事務局と十和田奥入瀬観光機構、青森県観光連盟、十和田市商店街連合会（個別の商店の場合もある）とのミーティングを四半期ごとに行い、企画立案、事業評価、個別の事業の打合せ等を行う。

3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

[Arts Towada]

Arts Towada（アーツ・トワダ）は、十和田市のシンボルロード「官庁街通り」全体を美術館と見立て、現代美術館、アート作品、アートプログラムの3つの要素を柱に展開する、まちづくりのためのプロジェクトである。

・運営理念

十和田市現代美術館では、現代アートを活用し、市民活動・市民文化・地域経済の活性化を図るため、一つの基本理念と三つの活動理念を掲げ、感動と創造の原動力である Arts Towada（アーツ・トワダ）プロジェクトを推進する。

・基本理念 Art for vigor of Towada city

「アートの感動を共有するまち十和田」を世界に発信し、現代アートによるまちの活性化と、市民をはじめ訪れる人々の幸せのために美術館運営を進める。

・活動理念 Art for civic activity, civil culture, local economy

1. 感動を呼ぶアートの体験や情報を提供し現代アートの息吹を伝えるとともに、参加型イベント等まちと一体となった事業展開により、市民活動を活発にする。
2. アートに根ざした地域づくりに取り組み、開拓と都市創造の歴史を未来につなぐとともに、国際的な展覧会やイベントを実施し諸外国との交流を促し、市民文化を高める。
3. 観光資源として質の高い施設経営を行い、広く国内外からの集客を図るとともに、豊かな自然環境や地域資源を活かしたアート / デザインの普及により、創造的産業振興を図り、地域経済を豊かにする。

[十和田市現代美術館]（文化資源の分類：現代アート作品）

十和田市現代美術館は、アートを通じた新しい体験を提供する開かれた施設として、国内外で活躍する22人のアーティストによるコミッションワークの展示のほか、芸術文化活動の支援や交流を促進するための施設である。常設展示室、企画展示室、休憩スペース、市民活動スペース、屋外イベントスペースなどの多様な機能を内包している。

その特徴は、

- 個々の展示室を、「アートのための家」というコンセプトで、それぞれの作品が、独立した作品に適した空間を恒久的に与えられている。
- 休憩スペース、エントランス・ホール、階段室、中庭、外部照明などパブリックエリア等敷地全体に作品を展開している。
- 展示室に大きな開口を設け、官庁街通りと美術館の活動や作品が連続していくようなつくりになっており、来訪者は屋内空間と屋外空間を同時に体験することができる。また、さまざまな方向に向かって大きなガラスの開口を持ち、アート作品が街に対して展示されているかのような開放的な構成となっている。
- 各展示室を独立配置させることで、それぞれのアート作品にあわせて建築空間をつくることができ、両者がより密接な関係が生まれている。この分散型の建築構成は、広場と建物が交互に並ぶ官庁街通りの特徴から着想を得ており、建物に大小のボリュームをつくることで、大小の建物が並ぶ通りの景観と連続性を持たせている。

[屋外アート（アート広場、ストリートファニチャー）]

アート広場は、美術館周辺の3つの大きな空間に、アートが満ち溢れた広場となっている。そこには世界を舞台に活躍する草間彌生をはじめ国際色豊かな6組のアーティストによる体験型の大型作品が展示されている。

また、十和田市官庁街通り歩道には、4組のアーティストによるストリートファニチャーを設置し、より魅力あるアートの道を創出。訪れた人々が官庁街通りを楽しみながら歩き、交流し、通りからまち全体への流れを生み出している。

[作品]

・美術館内の常設展示作品と野外常設作品あわせて33組の作家による現代アート作品38点が設置されている。

主要な作品 ロン・ミュエク《スタンディング・ウーマン》、草間彌生《愛はとこしえ十和田でうたう》、チェ・ジョンファ《フラワーホース》



十和田市現代美術館及びアート広場



スタンディング・ウーマン／ロン・ミュエク



愛はとこしえ十和田でうたう／草間彌生



フラワーホース／チェ・ジョンファ

3-1-2. 来訪客の動向

【来館者数】

美術館の来館者数は年間 15 万人程度である。県外からの来館者が 70%を占め、そのうち台湾や中国大陸などの海外からの観光客が入館者の 5～6%を占めている。

美術館観覧者数（令和元年度）

令和元年度 161,097 人

うち県外客 約 108,000 人

外国人 約 10,200 人

【来館者の属性】

- ・入館者のうち 10 代が 11%、20 代が 17%、30 代が 18%、40 代が 14%
- ・関東地域からが 39%、北海道・東北地域（青森県除く）が 28%、青森県内から 21%

【地域への波及】

- ・市内で食事をとる人は 86%（うち美術館周辺は 76%）
- ・宿泊日数：1 泊以上 63%、日帰り 28%（うち市内宿泊率は 60%）
- ・美術館以外の訪問場所：十和田湖・奥入瀬エリアが 32%で最多

【観光客数の状況】

・十和田市における観光入込客数は、平成 28 年に 2,915 千人、平成 29 年に 3,026 千人、平成 30 年に 3,105 千人と増加を続けている。なお、東日本大震災前の平成 22 年は 2,989 千人であり、震災前の水準に回復している。

・十和田市における宿泊数は平成 28 年に 293 千人泊、平成 29 年に 320 千人泊、平成 30 年に 328 千人泊、令和元年に 332 千人泊と増加傾向にある。

・一方、奥入瀬・十和田湖を含む十和田八幡平国立公園（十和田地区）の観光入込客数は平成 30 年で 2,232 千人、奥入瀬・十和田湖地区の宿泊数は令和元年で 218 千人泊であり、奥入瀬・十和田湖を目的に来訪する観光客を、美術館の位置する十和田市街地に周遊してもらうことが重要である。

また、外国人宿泊数は平成 28 年に 32 千人泊、平成 29 年に 49 千人泊、平成 30 年に 62 千人泊、令和元年に 67 千人泊と、近年大幅に増加している。外国人宿泊者数を国・地域別に見ると、台湾が半数以上を占め、そのほか中国、香港、韓国などが多く、東アジア地域からの宿泊者が外国人宿泊者数全体の 8 割以上を占めている。一方、欧米豪からの宿泊者数は 3%以下であり、長期滞在傾向のある欧米豪からの旅行者を増加させる余地があるものと考えられる。

十和田市宿泊統計（令和元年）

市内年間宿泊数 331,881 人泊

うち外国人 66,930 人泊

外国人の国別内訳：台湾 37,307、中国 11,663、香港 5,888、韓国 4,532、その他 7,540

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

■多言語での情報発信

・金沢 21 世紀美術館（金沢市）：海外の来館者、英語/中国（簡体字/繁体字）/韓国語/フランス語/スペイン語の来館者にも対応できるように HP の美術館概要/アクセス/収蔵品の解説/随時発信できる注意事項なども含め、すべて多言語で発信している。

・国立西洋美術館（東京都）：英/簡/韓。ポーラ美術館（箱根町）：英/簡/繁

・国外参考事例：国立故宮博物館（中国）では、和/英/簡/繁/韓/仏/独など12ヶ国語対応。ルーブル美術館（フランス）は10ヶ国語対応。

■作品解説

・アーティゾン美術館（東京都）：来館者に作品をより理解してもらうために、鑑賞の際に以下の内容を実施している。

作品解説シート/オーディオガイド/作品についての講座/ギャラリートーク/アーティストによる解説/家族向け・学校・教員向け鑑賞プログラム

・ベネッセアートサイト直島（直島町）：美術館ごとの作品解説シート・書籍/鑑賞ツアー（各美術館/各島/デイ・ナイトプログラム）

・青森県立美術館（青森市）：作品解説シート/教育機関や団体などのための「鑑賞教材」/子どもから大人まで対象となる鑑賞支援ツール「鑑賞手帳」/ギャラリートーク/アーティストによる解説/家族向け・学校・教員向け鑑賞プログラム

■館内の多言語案内

・森美術館（東京都）：主要な誘導やサインは、和/英/中（簡）/韓。

・福岡アジア美術館（福岡市）：誘導サイン、施設パンフレット、サイト上の施設案内などの固定的なものについては和/英/簡/韓の4ヶ国語対応。

・鉄道博物館（さいたま市）：駅からの案内表示、館内ガイドマップ施設内サイン、展示解説の見出しは和/英/簡/韓の4ヶ国語対応。

・日本科学未来館（東京都）：館内サインは和/英/簡/韓の4ヶ国語対応。

■地域の文化等を活用した活動

・東京都美術館：美術館を拠点にアートを介してコミュニティを育んでいる。例）「とびらプロジェクト」美術館、大学、地域と連携し活動を行なっている。

・水戸芸術館（水戸市）：美術館が中心となり、地域の人やまちと連携し企画を行なっている。例）中心市街地活性化事業とし、アーティストや商工会議所と連携して企画を実施。

十和田市現代美術館においては、上記と同様の取組を進めているが、WEBがほぼ日本語と英語のみであり多言語での情報発信が不足しているほか、来館者に作品をより理解してもらうための解説の手段が足りていない。

3-2. 課題

課題1 展示の魅力向上

当美術館の特徴であり魅力の主なものは、草間彌生、ロン・ミュエクなど世界で活躍する33組のアーティストによる38点の常設展示の現代アート作品である。それぞれの展示室が常設作品のために作られた専用の部屋であり、常設展示を楽しんでいただくことが基本コンセプトとなっている。

令和元年度のアンケート調査結果によると来館者の77%が初めての来館であり、当該来館者にとっては常設展示作品の目新しさを感じることができるが、リピーター獲得や初回の来館者に対してもより満足度を向上させるためには、様々な視点から深く理解し、楽しむための解説や紹介をするための取組が重要であり、現在の課題であると考えられる。

課題2 情報通信技術を活用した解説・紹介

情報通信技術を活用する前提となる館内全域でのWi-Fiが未整備である。(施設の一部では来館者用無料Wi-Fiが利用可能。)

課題1及び課題2と関連して、展示されている作品の背景を知り、理解を深め、より楽しんでもらうための伝達手段として、オーディオガイド、スマートフォン・タブレット端末での情報提供など、ICTを活用した解説や展示が必要である。

課題3 外国人観光客の受入環境向上

当市への外国人観光客の8割以上が台湾、中国、香港など東アジア地域であるが、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語での解説・表示やWEBにおいて当該言語で表示される情報が少ない。英語圏に関してもWEBでの情報や来館者に対しては解説シートや展示室内の作品・作家紹介などが英語でなされているものの、より知的好奇心を有する傾向がある欧米豪人に対して、十分に作品の背景や価値を伝えられる解説・紹介が少ない。

課題4 地域の伝統文化等を活用した活動

美術館や現代アートに関連した活動を地域の賑わいへとつなげる取組が不足しており、より充実させる必要がある。地域の伝統文化等と現代アートを融合させたイベント等を実施することで、市民に対しては、文化観光推進への理解を深めることにつながり、外からの来訪者に関しては、作品を鑑賞するのみではなく本市でしか体験できない楽しみ方を創出することができると思う。

課題5 奥入瀬・十和田湖地区との連携強化

十和田市を訪れる観光客の多くが、美術館がある中心市街地から離れた奥入瀬溪流や十和田湖など国立公園の自然景観を来訪の目的としている。これらの自然景観を目的として来訪し、美術館に立ち寄らない観光客に対し、美術館をはじめとするアートの街に興味・関心を持ってもらい周遊させる仕組みが不足していることが課題であると思う。

課題6 青森県内の美術館との連携強化

青森県内には現代アート作品を展示する美術館が5館(十和田市現代美術館、青森県立美術館、弘前れんが倉庫美術館、青森国際芸術センター、八戸市の新美術館)があるが、5つの美術館が連携して誘客を図る取組は行われていない。現代アートに興味がある客層に対して、青森県に来れば複数の美術館を巡ることができるということが大きな魅力となり得ることから、5館での連携した発信等が必要である。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

取組強化事項1: 作品の魅力・理解の向上(課題1及び課題2関連)

リピーター獲得や初回の来館者に対してもより満足度を向上させるため、作品を単に展示するだけでなく、作品の背景や価値をストーリー性を持ってわかりやすく解説する。年に3人の作家本人へのインタビューを通じて作品の魅力を深く掘り下げオーディオガイドや解説シートで紹介するほか、作品本来の色を引き立たせ魅力を向上させるため、全館の照明をLED化する。

取組強化事項2: 外国人観光客の受入環境向上(課題2及び課題3関連)

本市への外国人観光客の8割以上を占める台湾、中国、香港など東アジア地域からの来館者に向けて、WEBの多言語化により案内を充実させる。

外国人の満足度向上を図るため、作品について理解を深めるための多言語オーディオガイド機器を導

入するほか、作品の多言語解説シートを、より分かりやすくリニューアルする。

取組強化事項3：地域との連携による常設作品の解説の充実（課題4関連）

主に市内の美術館のファンを、観光客に向けて作品の魅力を紹介できるガイドとして育成し、分かりやすい解説・紹介につなげるとともに、将来的には美術館内での解説や案内にとどまらず、屋外アートやストリートファニチャーも設置している美術館周辺の街歩きガイドとしても活動することで、美術館を拠点とした周辺観光のコンテンツを創出する。

取組強化事項4：地域の祭りや伝統文化と現代アートとの融合による魅力の創出（課題4関連）

文化観光推進事業者（一般社団法人十和田奥入瀬観光機構、ナンジョウアンドアソシエイツグループ）と連携し、地域の祭りや伝統文化と現代アートを融合させた、本市でしか体験できないイベント等を行い、新たな魅力の創出や市民と観光客の交流を促すことで本市のファンづくりをし、リピーターの確保を目指す。

取組強化事項5：奥入瀬・十和田湖地区との連携強化（課題5関連）

美術館のある中心市街地から離れた奥入瀬溪流・十和田湖などの自然景観を目的に来訪する観光客を美術館及び中心市街地に周遊させるため、十和田湖・奥入瀬溪流地区でのアート展示の取組や、同地区から美術館を周遊するツアーを造成する。すでに自然を目的に多くの観光客が来訪しているという十和田市の強みを活かし、美術館を拠点とした市街地の観光振興につなげ、国立公園の自然と現代アートの街という2つの魅力で本市への誘客の底上げと滞在時間の延長・宿泊数の増加を図る。

取組強化事項6：青森県内の美術館との連携強化（課題6関連）

現代アートに興味がある県外客は、1館を見学するためだけにはあえて来訪しないが、青森県には現代アートの美術館が5館あり、それらを巡ることができるという強みを発信するとともに、美術館を巡る移動中に本県特有の豊かな自然なども満喫することができるという魅力を活かす。

県内5館の情報をまとめて発信することで、青森県への訪問動機を高め、十和田市現代美術館及び周辺への来訪者の増加につなげる。

具体的には、青森県内の美術館（十和田市現代美術館、青森県立美術館、弘前れんが倉庫美術館、青森国際芸術センター、八戸市の新美術館）による協議会を設置し、広報、マーケティング、イベント、共通ホームページなどの連携した取組を行う。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

十和田市では、年間宿泊数約33万人泊のうち、奥入瀬・十和田湖地区が66%を占めているほか、外国人の宿泊数に関しては奥入瀬・十和田湖地区が95%を占めており、十和田市現代美術館がある市街地への誘客と市街地内の周遊が課題となっている。

十和田市現代美術館は、世界に誇る現代アートを多数所蔵・展示しており、一般社団法人十和田奥入瀬観光機構（地域DMO）、公益社団法人青森県観光連盟（地域連携DMO）等と連携し、周遊ツアーを造成するなどの取組で、奥入瀬・十和田湖地区から市街地へ誘客する魅力的な拠点となる。

また、アーツ・トワダは、美術館を中心としたアートによるまちづくりの取組であり、美術館を拠点として商店街連合会等と連携した市内の周遊イベント等を実施することで、地域の文化観光の推進に貢献できる。

また、青森県内の現代アートをテーマとした美術館5館が連携して魅力を発信していく予定であり、アートを目的とした新たな観光客層や世代を惹きつけ、十和田市の観光客増加につなげる。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

美術館を拠点とした文化観光の推進により、本市への誘客が促進され、観光による地域での消費額の増加、宿泊を伴う滞在時間の延長などによる地域の活性化が図られる。

美術館を文化観光の拠点として機能を強化することにより、美術館そのものへの来館者の増加や周辺への波及効果が生まれる。また、美術館アート広場を活用し、屋外アート作品とイルミネーションとが融合した冬季のイベントとして実施している「アーツ・トワダ ウィンターイルミネーション」などのように、美術館本体のみならずアーツ・トワダ（アートによるまちづくり）を活用した誘客の取組が本計画によりさらに増加することで、本市の賑わいの創出やアートの街としてのイメージの定着が図られ、国内外のアーティストからの注目も高まることでよりよい企画展やアーティストとの交流の促進につながり、更に本市のアートの魅力が増していくという好循環が起きる。

また、観光客の増加による地域内での観光消費の拡大により、地域経済の活性化を実現することで、市税収入、美術館観覧料収入が増加し、美術館でのより一層魅力のある企画展の実施や市街地におけるアート展示などアーツ・トワダの取組の促進への再投資につながる。

4. 目標

目標①：来訪者の満足度（課題1、課題2、課題4関連、取組強化事項1、取組強化事項3、取組強化事項4関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

毎年実施の来館者アンケート項目「当館にまた来たいか」に対する肯定的な回答の割合。2020年度以降、毎年度2%増加を目標とする。

年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値	77%	83%	85%	87%	89%	91%	93%
事業番号1-①： 美術館コレクションの 魅力向上事業				(1)常設作品の作家3名へのインタビューを行い、作品の魅力を深く掘り下げ、館内での作品解説表示に反映させる。 (2)新たに常設設置する作品をデータベースに登録する。 (3)全館の照明をLED化し、作品本来の色を引き立たせ魅力を向上させる。 (4)上記(1)～(3)の事業及び常設作品管理・資料整理を行う専門人材を雇用する。	(1)前年度とは別の常設作品の作家3名へのインタビューを行い、館内での作品解説表示に反映させる。 (2)専門人材の雇用を継続	(1)前年度とは別の常設作品の作家3名へのインタビューを行い、館内での作品解説表示に反映させる。 (2)専門人材の雇用を継続	(1)前年度とは別の常設作品の作家3名へのインタビューを行い、館内での作品解説表示に反映させる。 (2)専門人材の雇用を継続
事業番号1-③： 常設作品の入れ替えによる魅力向上事業			既存作品との入替1作品 倉庫の展示室への改修	寄託作品展示開始1作品 展示室増築・新規1作品展示開始			

<p>事業番号2-②： 美術館コレクションの 理解向上事業</p>				<p>(1)学芸員による常設作品の 解説ギャラリートークを開 催する。 (2)常設作家を年1回招聘 し、作品解説を行う。 (3)観光客に作品の魅力を紹介 できる市民によるボラン ティアガイドを育成する。 そのための専属のコーデ ィネーターを雇用する。 (4)日本語オーディオガイド を導入する。</p>	<p>(1)ギャラリートークの開催 (2)常設作家の招聘による作 品解説イベント (3)ボランティアガイドの育 成、専属コーディネーター の雇用の継続</p>	<p>(1)ギャラリートークの開催 (2)常設作家の招聘による作 品解説イベント (3)ボランティアガイドの育 成、専属コーディネーター の雇用の継続</p>	<p>(1)ギャラリートークの開催 (2)常設作家の招聘による作 品解説イベント (3)ボランティアガイドの育 成、専属コーディネーター の雇用の継続</p>
<p>事業番号4： 十和田市の食材を使用 したカフェの新メニュ ー開発事業</p>				<p>(1)商店街と共同で美術館を イメージするメニュー開 発、販売 (2)地域の事業者と共同で、 美術館に併設されているカ フェで提供する十和田市の 食材を用いた新たなメニュ ーを開発する。 (3)地域の事業者と連携し、 上記メニューに関連したワ ークショップを実施する。</p>	<p>左記メニューに関連したワ ークショップを実施する。</p>	<p>左記メニューに関連したワ ークショップを実施する。</p>	<p>左記メニューに関連したワ ークショップを実施する。</p>
<p>事業番号6： 美術館の魅力・利便性向 上に係る施設整備事業</p>			<p>(2)事業番号1-③と関連 し、倉庫を展示室に改修</p>	<p>(1)事業番号1-①と関連 し、照明をLED化 (3)事業番号3-②と関連 し、館内全域Wi-Fi整備</p>	<p>(4)事業番号3-②と関連し て、キャッシュレス決済導 入</p>		

目標②：来訪者数（総数）（課題5、課題6関連、取組強化事項5、取組強化事項6関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

毎年実施の来館者数集計により把握。新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に5年程度要すると推定。2021年度以降、毎年度2万人増加を目標とする。

年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値（単位：千人）	152.4	161.1	41	80	110	140	170
事業番号1-⑥： アートツーリズムを軸にした旅行商品造成事業			事業番号1-⑤のアーツ・トワダウインターイルミネーションと現代美術館及び市内有名建築家設計建築物を巡る商品造成	商品販売継続	商品販売継続	商品販売継続	商品販売継続
事業番号1-⑦： 十和田・八甲田地域ナイトタイム市場創出事業			株式会社城ヶ倉観光が企画する富裕層向けツアーと連携、貸切ナイトミュージアム実施	左記メニューの発展・定着に向け連携継続	左記メニューの発展・定着に向け連携継続	左記メニューの発展・定着に向け連携継続	左記メニューの発展・定着に向け連携継続
事業番号1-⑧： アートを活用した新たな時間市場の創出事業			現代美術館、国立公園、体験、飲食等を組み合わせたナイトタイムコンテンツ創出	左記メニューの発展・定着を図る。	左記メニューの発展・定着を図る。	左記メニューの発展・定着を図る。	左記メニューの発展・定着を図る。
事業番号1-⑩： 現代美術館を発着地としたツアー造成			現代美術館を発着地とした十和田湖奥入瀬周遊プラン、街なかガイドツアー、プライベートナイトミュージアムツアー造成	左記ツアーの継続・定着	左記ツアーの継続・定着	左記ツアーの継続・定着	左記ツアーの継続・定着

事業番号1-⑪: ナイトミュージアムツアー			星野リゾート奥入瀬溪流ホテルの富裕層向けツアーと連携、閉館後の貸切美術館ツアー実施	左記メニューの発展・定着に向け連携継続	左記メニューの発展・定着に向け連携継続	左記メニューの発展・定着に向け連携継続	左記メニューの発展・定着に向け連携継続
事業番号1-⑫: ポップアップルーム設置			株式会社城ヶ倉観光が企画する富裕層向けメニューと連携、鳶温泉旅館特別室に美術館ルームを設置し、美術館へ誘導	左記富裕層向けメニューの継続・定着	左記富裕層向けメニューの継続・定着	左記富裕層向けメニューの継続・定着	左記富裕層向けメニューの継続・定着
事業番号5-②: 十和田湖を訪れる観光客と市街地を訪れる観光客をつなげる事業					十和田湖を訪れる観光客を美術館(市街地)に誘導する企画展示を十和田湖にて行うための準備業務を行う。	十和田湖を訪れる観光客を美術館(市街地)に誘導する企画展示を十和田湖にて行う。	
事業番号5-③: 県内美術館連携誘客事業			(1)5館連携協議会設立・共通ホームページ立ち上げ (2)弘前市との連携による多言語アート周遊マップ作成着手	(1)5館連携協議会事業によるイベント開催、ホームページでの情報発信 (2)弘前市との連携による多言語アート周遊マップ完成	(1)5館連携協議会事業によるイベント開催、ホームページでの情報発信	(1)5館連携協議会事業によるイベント開催、ホームページでの情報発信	(1)5館連携協議会事業によるイベント開催、ホームページでの情報発信

目標③：来訪者数（外国人）（課題2、課題3、課題5関連、取組強化事項2、取組強化事項5関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

解説シート配布時のヒアリングにより把握。新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に5年程度要すると推定。2021年度以降、毎年度2千人増加を目標とし、10年度には現状値の2倍となる2万人以上の外国人来訪者数を目指す。

年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値（単位：千人）	7.7	10.2	0.1	4	6	8	10

<p>事業番号2-①： 海外からの観光客に向けて文化についての理解を深める事業</p>				<p>(1)多言語によるオーディオガイド機器を導入し、常設作品の解説を充実させる。 (2)作品の多言語解説シートをリニューアルし、外国人観光客の作品理解の向上に努める。 (3)多言語解説シート等にQRコードを掲載し、来館者が自らのスマートフォンやタブレットで詳細な解説を読むことができる仕組みを導入する。</p>			
<p>事業番号3-①： 海外からの観光客の来館利便性向上事業</p>				<p>東北新幹線七戸十和田駅に美術館を紹介・誘導する多言語案内看板を設置する。</p>	<p>必要に応じ盤面の内容の更新を行う。</p>	<p>必要に応じ盤面の内容の更新を行う。</p>	<p>必要に応じ盤面の内容の更新を行う。</p>
<p>事業番号3-②： 海外からの観光客の館内利便性向上事業</p>				<p>(1)美術館のキャプションや案内サインに多言語(簡体字/繁体字/韓国語)を追加する。 (2)館内全域でWi-Fiを利用できる環境を整備することで、必要な情報の取得と、SNS等による情報発信に寄与する。</p>	<p>(3)観覧料の支払いをキャッシュレス決済でも可能とする。</p>		

<p>事業番号5-①： 国内外向け宣伝事業</p>				<p>(3)WEB サイト多言語化(中国語(繁体字/簡体字)/韓国語を追加)</p>	<p>(1)外国人訪日の交通拠点である空港(羽田空港/千歳空港)や新幹線の駅(東京駅/仙台)等でポスターによるプロモーションを実施</p> <p>(2)奥入瀬溪流・十和田湖地域のホテルや旅館等と連携し、自然目的で訪れた観光客に美術館の情報を発信する。</p>	<p>(2)奥入瀬溪流・十和田湖地域のホテルや旅館等と連携し、自然目的で訪れた観光客に美術館の情報を発信する。</p>	<p>(2)奥入瀬溪流・十和田湖地域のホテルや旅館等と連携し、自然目的で訪れた観光客に美術館の情報を発信する。</p>
-------------------------------	--	--	--	--	---	---	---

目標④：現代美術館来訪者の平均消費額（課題4、課題5関連、取組強化事項4、取組強化事項5関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

十和田奥入瀬観光機構が実施している来訪者ヒアリング調査のうち、現代美術館来訪者の旅行消費額のデータより把握。2020年度以降、毎年2千円増加を目標とし、2024年度には十和田市で最も消費額が高い観光地である十和田湖地区の水準（2019年度約28,000円）を目指す。

年度	実績		目標				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目標値（単位：円）	22,069	25,676	20,000	22,000	24,000	26,000	28,000
事業番号1-②： 観光客と市民が地域の文化について理解を深める事業			(1)商店街の店舗へ企画展作品の展示	(1)商店街の店舗へ企画展作品の展示 (4)三本木小唄流し踊りとアートを融合させたイベント開催	(1)商店街の店舗へ企画展作品の展示 (4)三本木小唄流し踊りとアートを融合させたイベント開催 (5)流鏑馬と美術館を組み合わせたツアー造成 (6)商店街エリアの施設（地域交流センター）において	(1)商店街の店舗へ企画展作品の展示 (2)商店街店舗で使用するアート作家によるデザイン包装紙活用 (3)商店での企画展ビジュアルイメージ外装 (4)三本木小唄流し踊りとアートを融合させたイベント	(1)商店街の店舗へ企画展作品の展示 (2)商店街店舗で使用するアート作家によるデザイン包装紙活用 (3)商店での企画展ビジュアルイメージ外装 (4)三本木小唄流し踊りとアートを融合させたイベント

					企画展を実施	開催 (5)流鏑馬と美術館を組み合わせたツアー開催 (6)商店街エリアの施設（地域交流センター）において企画展を実施	開催 (5)流鏑馬と美術館を組み合わせたツアー開催 (6)商店街エリアの施設（地域交流センター）において企画展を実施
事業番号1-④： 地域交流センター整備事業			建設工事着工	建設完了	現代美術館企画展開催（事業1-②(5)再掲）	現代美術館企画展開催（事業1-②(5)再掲）	現代美術館企画展開催（事業1-②(5)再掲）
事業番号1-⑤： アーツ・トワダ ウィンターイルミネーション事業			現代美術館アート広場でアート作品とイルミネーションとが融合したイベントを開催（12月～2月）	現代美術館アート広場でアート作品とイルミネーションとが融合したイベントを開催（12月～2月）	現代美術館アート広場でアート作品とイルミネーションとが融合したイベントを開催（12月～2月）	現代美術館アート広場でアート作品とイルミネーションとが融合したイベントを開催（12月～2月）	現代美術館アート広場でアート作品とイルミネーションとが融合したイベントを開催（12月～2月）
事業番号1-⑨： アートのある地域づくり事業			現代美術館前での街なかアートマルシェ開催。市民制作アートの街なか展示。	街なかアートマルシェの自立継続	街なかアートマルシェの自立継続	街なかアートマルシェの自立継続	街なかアートマルシェの自立継続

5. 目標の達成状況の評価

十和田市の地域DMOである十和田奥入瀬観光機構と連携し、同機構が行う観光マーケティング調査の結果及び美術館で実施している来館者アンケート調査の結果を用い、各事業の実施効果を適切に評価し、事業の改善につなげる。

上記の内容を協議するため、事業の進捗管理及び評価ミーティングを年2回程度実施する。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）
情報通信技術を活用する前提となる館内全域でのWi-Fiを整備するとともに、展示スペースには限りがあり大型の解説版は設置できないため、オーディオガイドの導入、配布する解説シートのQRコードを読み取ることでスマートフォン・タブレット端末でより詳細な解説を読むことができる情報提供の仕組みなど、本美術館の環境に適したICTを活用した解説や紹介の充実及び利便性向上を図る。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

本市への外国人観光客の8割以上を占める台湾、中国、香港など東アジア地域からの来館者に向けて、WEBの多言語化により案内を充実させる。

外国人の満足度向上を図るため、作品について理解を深めるための多言語オーディオガイド機器を導入するほか、作品の多言語解説シートを、より分かりやすくリニューアルする。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

美術館や屋外アート作品を活用した中心市街地における観光振興について、市とDMOである十和田奥入瀬観光機構が個別の事業ごとに随時連携し、取り組んでいる。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

十和田市では、平成29年度から来訪者ヒアリング調査を行っており、十和田市現代美術館来訪者についても定期的に観光目的や旅行消費額等のデータ収集、分析を行っている（令和元年度からは十和田市からの委託を受けた十和田奥入瀬観光機構が実施）。

また、十和田市現代美術館指定管理者のナンジョウアンドアソシエイツグループでは独自に来館者に対するアンケート調査を行っており、来館動機や情報収集源、利用交通機関等のデータ収集、分析を行っている。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

毎年度実施する十和田市事務事業評価において、美術館事業の実施効果を評価し、内容の改善に努めている。

6-2-2. 本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

本拠点計画に基づく取組について、美術館設置者である市と、十和田市現代美術館指定管理者ナンジョウアンドアソシエイツグループ、十和田奥入瀬観光機構が連携し、十和田市商店街連合会などの関係者と連携体制を構築していく。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

本計画においては、従来十和田市（令和元年度からは十和田奥入瀬観光機構）と十和田市現代美術館指定管理者ナンジョウアンドアソシエイツグループがそれぞれに行ってきた調査（6-2-1 中段に記載）を連携させて共有し、市内他地域（十和田湖や奥入瀬溪流）への周遊状況（ルートや利用交通機関）の現状把握を行うほか、アート志向と自然志向の親和点について重点的に分析することとしている。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立
十和田奥入瀬観光機構と連携し、同機構が行う来訪者ヒアリング調査の結果及び美術館で実施している来館者アンケート調査の結果を用い、各事業の実施効果を適切に評価し、事業の改善につなげる。

6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施
美術館の企画展について、美術館周辺の文化観光推進事業者（商店街）を展示会場の一部とした企画を行うことで、美術館来館者の商店街への周遊を図っている。

6-3-2. 本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施
今後も、商店街を会場の一部とした企画展を充実させていくほか、地域の文化である流し踊りとアートを融合させたイベントや、アート広場を活用したイルミネーションイベントと夜の飲食店への回遊を結び付けた取組を行うなど、にぎわいづくりに取り組む。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	美術館コレクションの魅力向上事業
事業内容	<p>作品の背景や価値の調査・研究を行うことで、解説を充実させ、常設作品を様々な角度から何度も楽しんでもらうとともに、展示環境の改善を図る。</p> <p>(1) 常設作品の調査研究：作家本人へのインタビューを通じ、作品の魅力を深く掘り下げ、美術館で紹介する。(オーディオガイド、WEBサイトでの紹介に活用)</p> <p>(2) 常設作品データベース更新：新たに常設展示する作品をデータベースに登録し、デジタルアーカイブを充実させるとともに、(1)のオーディオガイド、WEBサイトでの紹介に活用する。</p> <p>(3) 観賞しやすい展示改修：展示室等の照明を全て LED に交換することにより、作品本来の色を引き立たせ、魅力を向上させる。</p> <p>専門人材確保：常設作品管理・資料整理を行う専門人材を雇用する。</p>
実施主体	十和田市・ナンジョウアソシエイツグループ
実施時期	令和3年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後も市及び施設指定管理者の事業として継続する。
アウトプット 目標	インタビューの内容を美術館で公開 照明のLED化
必要資金 調達方法	67 百万円 (内訳：23 百万円 (一般財源) 44 百万円 (クラスター補助金 (文化庁))) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-②)

事業名	観光客と市民が地域の文化について理解を深める事業
事業内容	<p>文化観光推進事業者（一般社団法人十和田奥入瀬観光機構）と連携し、地域の文化について理解を深めるとともに、十和田市でしか体験できないイベントを行い、市民と観光客の交流を促す。</p> <p>(1) 商店街の店舗に作品を展示し、企画展のまちなかの会場として公開する。企画展関連のために美術館を訪れたお客様の多くが、店舗を訪れることになる。</p> <p>(2) 商店街の店舗で使用する包装紙を作家に制作してもらい、店舗での購入を促すとともに、市内の店舗を知っていただくきっかけをつくる。</p> <p>(3) 展覧会のポスターだけではなく、展覧会のイメージとなるビジュアルイメージをカッティングシートで制作し、店舗の外装などに設置する。</p> <p>(4) 地域の文化である三本木小唄流し踊りを来訪者が自由に参加して踊ることができるイベント「三本木小唄ナイト」を十和田市現代美術館アート広場で実施し、地域の文化と現代アートを融合させた魅力の体験機会の提供及び発信を行う。</p> <p>(5) 十和田市で行われている日本の伝統文化を活かした流鏝馬競技イベントと美術館を組み合わせたツアーを造成する等の取組を行う。</p>

	(6) 観光客をまちなかに回遊させ十和田市の文化を体験してもらうため、まちなかにおいて展覧会等を実施する。
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ・十和田奥入瀬観光機構・十和田市商店街連合会
実施時期	令和3年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後も連携し、地域のイベントとして継続する。
アウトプット 目標	年1回の「三本木小唄ナイト」を開催 まちなか展示会の開催
必要資金 調達方法	24百万円（内訳：8百万円（一般財源） 16百万円（クラスター補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号1-③)

事業名	常設作品の入れ替えによる魅力向上事業
事業内容	アーツ・トワダのグランドオープン10周年を記念し、常設作品の入れ替えを行い、すでに美術館を訪れたことがある方に対して再訪動機を高めるほか、作品の充実により新規の誘客もさらに促進される。 ・既存作品との入れ替え 1作品 ・展示室を増築し、新設 1作品 ・倉庫を展示室に改装し、寄託作品を展示 1作品
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和2年4月～令和4年3月
継続見込	入れ替えた作品を継続して展示・紹介する。
アウトプット 目標	新たな常設作品数 3作品（内寄託作品1点）
必要資金 調達方法	257百万円（内訳：257百万円（一般財源））

(事業番号1-④)

事業名	地域交流センター整備事業
事業内容	質の高い企画展などに利用できるギャラリーや地域のランドマークとなる存在感のある外壁アートなどを備えた多用途施設を整備し、現代美術館の企画展を展示室で実施する等、現代アートを活用した地域交流の拠点とする。 当該施設は商店街エリアに立地しており、美術館と連携した企画展などを開催することで、美術館来館者の市街地への周遊を図る。
実施主体	十和田市
実施時期	令和2年4月～令和4年3月
継続見込	計画期間終了後もアートに関する企画展を継続予定
アウトプット 目標	地域交流センター建設
必要資金 調達方法	1,193百万円（内訳：250百万円（一般財源）、489百万円（地方債）、454百万円（都市再編集中支援事業費補助金（国土交通省））国の予算事業等について、記載のとおり

調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号1-⑤)

事業名	アーツ・トワダウインターイルミネーション事業
事業内容	観光客数が減少する冬季の誘客を図るため、十和田市現代美術館アート広場に約30万球のイルミネーションを敷き詰め、屋外アート作品とイルミネーションとが融合したイベント「アーツ・トワダ ウインターイルミネーション」を実施する。 また、併催イベントとして飲食店を巡る「十和田バルフェス」を実施し、美術館周辺の飲食店での消費額増加を図る。
実施主体	十和田市・十和田奥入瀬観光機構
実施時期	令和2年12月～令和6年2月
継続見込	市及び十和田奥入瀬観光機構で継続して実施する。
アウトプット 目標	毎年約2カ月間開催
必要資金 調達方法	75百万円（内訳：75百万円（一般財源））

(事業番号1-⑥)

事業名	アートツーリズムを軸にした旅行商品造成事業
事業内容	事業番号1-⑤のアーツ・トワダ ウインターイルミネーションと、十和田市現代美術館内及び市内有名建築家設計建築物見学とを組み合わせ、アートに興味を持つ層が楽しめる、新しい切り口での個人旅行向けのタクシープラン商品の造成を行う。 ・十和田現代アート堪能コース 七戸十和田駅→十和田市教育プラザ（安藤忠雄設計）→十和田市市民交流プラザトワレ（隈研吾設計）→十和田市現代美術館（西沢立衛設計）→アーツ・十和田 ウインターイルミネーション
実施主体	青森県観光連盟・十和田奥入瀬観光機構
実施時期	令和2年12月～令和3年2月
継続見込	旅行商品として販売を継続する。
アウトプット 目標	周遊ツアー造成1本
必要資金 調達方法	4百万円（内訳：4百万円（誘客多角化のための魅力的な滞在コンテンツ造成事業（観光庁）国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。）

(事業番号1-⑦)

事業名	十和田・八甲田地域ナイトタイム市場創出事業
事業内容	株式会社城ヶ倉観光が企画する富裕層向けの特別な体験メニュー創出事業と連携する。具体的には、夜間・早朝時間帯の以下の体験コンテンツのうち、③の部分について連携する。 ①星空観賞体験 ②ウェルネス体験（早朝メディテーション、ヨガ、温泉入浴） ③フォトワークショップ（ライカとの提携による開催：十和田市現代美術館での撮影の際

	は、「ナイトミュージアム」として、同美術館閉館後の時間帯をワークショップ参加者のために貸切、ライカアンバサダーと共に、美術作品や館内風景、建物外観を被写体として撮影する。)
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和2年度
継続見込	体験コンテンツの継続・定着を図る。
アウトプット 目標	体験コンテンツの創出（令和2年11月フォトワークショップ1回開催）
必要資金 調達方法	実施主体の負担無し ※株式会社城ヶ倉観光事業費15百万円（内訳：15百万円（夜間・早朝の活用による新たな時間市場の創出事業（観光庁）国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号1-⑧)

事業名	アートを活用した新たな時間市場の創出事業
事業内容	十和田市現代美術館を中心としたアートの街である十和田市のシンボリックなアートアイコン（被り物）である「ウマジン」を活用し、十和田市現代美術館を立ち寄りスポットの一つとしたウマジンサンセットツアー（ライトアップスポットめぐり）、ウマジンナイトツアー（とわだバル）、ウマジンモーニングツアー（朝力ヌー）の可能性調査、体制作りを行う。（既存の自然環境を生かしたコンテンツを軸に美術館や国立公園、飲食店と連携し、アート、自然、食、体験など、バランスよく新たなコンテンツを造成し、共通パスポート「ウマジン」を使って面的につなぐことで地域全体の新たな賑わい時間軸を創出する。）
実施主体	十和田奥入瀬観光機構
実施時期	令和2年度
継続見込	新たなコンテンツの継続・定着を図る。
アウトプット 目標	体験コンテンツの創出（令和3年3月ツアー販売開始）
必要資金 調達方法	10百万円（内訳：10百万円（ナイトタイムコンテンツ造成事業（観光庁）国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号1-⑨)

事業名	アートのある地域づくり事業
事業内容	市内在住のアーティストと地域住民との交流により制作した作品を中心市街地に展示し、十和田市現代美術館を拠点とした「アートの街」としてのまちづくりを強化するとともに、十和田市現代美術館前でアートに関するワークショップと地元農産物や飲食、クラフト等の出店を行う「街なかアートマルシェ」を開催することによって、美術館そのものへの来館を促すとともに、観光客の滞在時間延長、消費拡大、地域経済循環の促進を図る。地域全体でこの事業に取組み、観光地域づくりを促すことにより地域で自立して発展させていくという意識改革を目的とする。
実施主体	十和田奥入瀬観光機構

実施時期	令和2年度
継続見込	地域で自立して継続できるよう発展を促す。
アウトプット 目標	街なかアートマルシェの開催（令和2年10月1回、11月2回）
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：1百万円（一般財源）、2百万円（むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援助成事業（公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団）財団の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号1-⑩）

事業名	現代美術館を発着地としたツアー造成
事業内容	専門人材の登用：株式会社ノットワールド代表取締役 河野有氏 十和田奥入瀬観光機構は、2020年10月1日に旅行事業部門（2020年8月5日に第3種旅行業登録済み）を開始する予定であるが、当該地域（十和田湖、奥入瀬、市街地）における商品造成、インバウンド回復時における海外向け商品の開発、加えてガイド人材の育成を専門人材を登用し実施する。専門人材がプロデュースしたノウハウとネットワークを利用して、本地域が目指す高品質な旅行商品とガイドの整備することを目的とする。 現代美術館を発着地とした十和田湖奥入瀬へのタクシープラン、まちなかガイドツアー、プライベート・ナイトミュージアムツアーを造成する。
実施主体	十和田奥入瀬観光機構
実施時期	令和2年度
継続見込	造成したツアーの継続・定着を図る。
アウトプット 目標	現代美術館を発着地としたツアーを造成（令和2年12月～令和3年2月の土日に実施）
必要資金 調達方法	2百万円（内訳：2百万円（「世界水準のDMO形成促進事業」マッチング支援事業（観光庁）申請中）国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号1-⑪）

事業名	ナイトミュージアムツアー
事業内容	星野リゾート奥入瀬溪流ホテルの富裕層向けの特別なツアーと連携する。 具体的には、十和田市現代美術館を閉館後に貸切とし、特別感を出した富裕層向けアートツアーを実施する。
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和2年度
継続見込	造成したツアーの継続・定着を図る。
アウトプット 目標	富裕層向けツアーの造成（令和2年12月に1回実施）
必要資金 調達方法	実施主体の負担無し

(事業番号 1-⑫)	
事業名	ポップアップルーム設置
事業内容	株式会社城ヶ倉観光の富裕層向けのメニューと連携する。 具体的には、旅館と美術館のコラボレーションとして、薫温泉旅館の特別室（和室）にて十和田市現代美術館のポップアップルームを設置する。お客様は薫温泉旅館に滞在しながら、十和田市現代美術館をはじめ、市街地のアートの世界へ導くきっかけを作る。
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和2年度
継続見込	販売開始より1ヶ月限定
アウトプット目標	富裕層向け特別室ポップアップルームの設置
必要資金調達方法	実施主体の負担無し

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号 2-①)	
事業名	海外からの観光客に向けて文化についての理解を深める事業
事業内容	情報通信技術等を活用し、外国語による情報提供の充実を図る。 (1)多言語（英語、中国語、韓国語）によるオーディオガイド機器を導入し、常設作品の解説を充実させることで満足度向上を図る。 (2)作品の多言語解説シート（英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語）をリニューアルし、外国人観光客の作品理解の向上に努める。 (3)多言語解説シート等にQRコードを掲載し、来館者が自らのスマートフォンやタブレットで詳細な解説を読むことができる仕組みを導入する。 ※多言語化にあたっては、ネイティブの専門家が作成する。（原則として、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に従う。）
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和3年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後も市及び施設指定管理者の事業として継続する。
アウトプット目標	作品解説の多言語での提供（英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語）
必要資金調達方法	15百万円（内訳：5百万円（一般財源） 10百万円（（クラスター補助金（文化庁））） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 2-②)	
事業名	美術館のコレクション理解向上事業
事業内容	常設作品の魅力の理解につながるよう、より分かりやすい解説・紹介を行う。 (1) 学芸員によるギャラリー・トーク 観光客に向けて、常設作品の解説を定期的実施する。事前予約制にし、複数名の参加の場合はグループを分け行うなど、参加者に合わせて対応する。時間は1時間程度

	<p>で、館内の常設作品をメインに解説を実施する。</p> <p>(2) 常設作家を招聘し、作品解説を行う。</p> <p>(3) 観光客に作品の魅力を紹介できる市民によるボランティアガイドを育成する。そのために専属のコーディネーターを雇用する。</p> <p>(4)事業番号2-①と関連し、多言語オーディオガイドにおいて日本語でも解説を提供し、常設作品の解説を充実させ、満足度向上を図る。</p>
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和3年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後も市及び施設指定管理者の事業として継続する。
アウトプット 目標	ボランティアガイドを10名。月1回のボランティアガイドによるガイドツアー。常設作家による作品解説イベント年2回。
必要資金 調達方法	14百万円（内訳：5百万円（一般財源） 9百万円（（クラスター補助金（文化庁））） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	海外からの観光客の来館利便性向上事業
事業内容	<p>海外からの観光客への案内等を充実させる事で、利便性の向上につなげる。</p> <p>(1)七戸十和田駅での多言語案内表示：文化観光推進事業者（一般社団法人十和田奥入瀬観光機構）と連携し、県外からの美術館までの主要な交通機関である東北新幹線七戸十和田駅に日本語/英語/中国語（簡体字/繁体字）/韓国語による案内看板を設置する。</p>
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ・十和田奥入瀬観光機構
実施時期	令和3年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後も市及び施設指定管理者の事業として継続する。
アウトプット 目標	案内看板の設置
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（一般財源） 4百万円（（クラスター補助金（文化庁））） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号3-②)

事業名	海外からの来館者の館内利便性向上事業
事業内容	<p>(1)美術館のキャプションや案内サインに中国語（簡体字/繁体字）/韓国語を追加する。</p> <p>(2)館内全域でWi-Fiを利用できる環境を整備することで、SNS映えする現代アートならではの情報の即時拡散に寄与する。</p> <p>(3)キャッシュレス決済に対応する。</p>

実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和3年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後も市及び施設指定管理者の事業として継続する。
アウトプット 目標	館内のキャプションや案内サインの多言語化 館内全域におけるWi-Fi環境整備
必要資金 調達方法	8百万円（内訳：3百万円（一般財源） 5百万円（（クラスター補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

（事業番号4）

事業名	十和田市の食材を使用したカフェの新メニュー開発事業
事業内容	全体の7割を占める県外からの来館者に向けて、地域の食材を活用したメニューを提供し満足度向上を図る。 (1) 美術館と商店街共同で、作品や美術館をイメージするメニューを開発する。飲食店だけではなく、お店で置いている商品に関してもアイデアを出し、商品開発も行う。その商品は美術館で販売するのではなく、店舗でしか購入できない仕組にする。 (2) 美術館に併設されているカフェにて、地域の事業者と共同で、十和田市の食材を用いたメニュー開発を行う。 (3) 地域の事業者と連携し、上記メニューに関連したワークショップを実施する。
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ・商店街連合会
実施時期	令和3年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後もカフェにてメニュー提供を継続する。
アウトプット 目標	年に1品の新メニュー開発に努めるとともに年4回のワークショップ等により地域の食材等の情報を発信。
必要資金 調達方法	4百万円（内訳：1.7百万円（一般財源） 2.3百万円（（クラスター補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

（事業番号5-①）

事業名	国内外への宣伝事業
事業内容	美術館のビジュアルイメージを国内の交通拠点や地域の宿泊施設において広報するほか、WEBでの情報発信を行うことにより、観光客への宣伝を強化する。 (1) 美術館のポスター等を空港（三沢空港/青森空港/羽田空港/千歳空港）や新幹線の駅（東京駅/仙台）等に設置する。 (2) 文化観光推進事業者（一般社団法人十和田奥入瀬観光機構）及び奥入瀬溪流・十和田湖地域のホテルや旅館等と連携し、自然観賞を目的として訪れた観光客に美術館の情報を発信する。 (3) 多言語化によるWEB案内を充実させる事で、海外からの集客につなげる。中国語（繁

	体字/簡体字)/韓国語を追加する。
実施主体	十和田市・十和田奥入瀬観光機構
実施時期	令和4年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後も市及び施設指定管理者の事業として継続する。
アウトプット 目標	空港・駅・ホテルへのポスターの設置
必要資金 調達方法	12百万円（内訳：4百万円（一般財源） 8百万円（（クラスター補助金（文化庁）） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号5-②)

事業名	十和田湖を訪れる観光客と市街地を訪れる観光客をつなげる事業
事業内容	十和田湖の自然を目当てに訪れる観光客に十和田市現代美術館・十和田市街地に興味を持ってもらい、誘導するため、美術館（市街地）と十和田湖畔の両方を見ることで完結する自然資源を活用した企画展を実施することにより、周遊を促す。
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和4年4月～令和5年10月
継続見込	計画期間終了後は、今後の企画展の際に継続する。
アウトプット 目標	作品展示（令和5年4月～10月）
必要資金 調達方法	40百万円（14百万円（一般財源）26百万円（クラスター補助金（文化庁））国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号5-③)

事業名	県内美術館連携誘客事業
事業内容	(1)青森県内の美術館（十和田市現代美術館、青森県立美術館、弘前れんが倉庫美術館、青森国際芸術センター、八戸市の新美術館）による協議会を設置し、広報、マーケティング、イベント、共通ホームページなどの連携した取組を行う。 アートに興味がある県外客をターゲットに、県内5館の情報をまとめて発信することで、青森県への訪問動機を高め、十和田市現代美術館及び周辺への来訪者の増加につなげる。 (2)令和2年度に弘前市に現代アートをテーマとした「弘前れんが倉庫美術館」が開館したことを契機に、特にアートに関心が高い外国人観光客をターゲットにして、両美術館を誘客のためのキーコンテンツとしながら、美術館以外の観光資源を活用したエリアでの滞在を促す。 1) 両美術館を中心に外国人観光客に長時間滞在してもらい街歩きを促すためのアートをテーマにしたマップを作成する。(片面十和田市、片面弘前市) (東北観光復興対策交付金 補助率80%)
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和2年4月～令和7年3月
継続見込	県内美術館同士の連携を継続していく見込み。

アウトプット 目標	共通ホームページ立ち上げ アートマップ作成（十和田市・弘前市）
必要資金 調達方法	(1)1百万円（内訳：1百万円（一般財源）） (2)5百万円（内訳：1百万円（一般財源）、4百万円（東北観光復興対策交付金（観光庁））国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-6. 7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号6）

事業名	美術館の魅力・利便性向上に係る施設整備事業
事業内容	(1)事業番号1-①と関連して、観賞しやすい展示改修・展示室等の照明を全てLEDに交換することにより、作品本来の色を引き立たせ、魅力を向上させる。 (2)事業番号1-③と関連して、既存の倉庫スペースを有効活用し、新たな展示スペースへリニューアルする。 (3)事業番号3-②と関連して、館内全域でWi-Fiを利用できる環境を整備することで、必要な情報の取得と、SNS等による情報発信に寄与する。 (4)事業番号3-②と関連して、キャッシュレス決済に対応する
実施主体	十和田市・ナンジョウアンドアソシエイツグループ
実施時期	令和3年4月～令和7年3月
継続見込	計画期間終了後も市及び施設指定管理者の事業として継続する。
アウトプット 目標	照明LED化、展示室改修、全館Wi-Fi整備、キャッシュレス化
必要資金 調達方法	61百万円（内訳：25百万円（一般財源） 36百万円（（クスター補助金（文化庁））） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。【再掲】

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条 (法の特例)
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

年度	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和2年度	46 百万円	事業番号1-③	7 百万円	7 百万円 (一般財源)
		事業番号1-⑤	15 百万円	15 百万円 (一般財源)
		事業番号1-⑥	4 百万円	4 百万円 (誘客多角化のための魅力的な滞在コンテンツ造成事業 (観光庁))
		事業番号1-⑧	10 百万円	10 百万円 (ナイトタイムコンテンツ造成事業 (観光庁))
		事業番号1-⑨	3 百万円	1 百万円 (一般財源) 2 百万円 (むつ小川原地域・産業振興プロジェクト支援助成事業 (公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団))
		事業番号1-⑩	2 百万円	2 百万円 (「世界水準のDMO形成促進事業」マッチング支援事業 (観光庁))
		事業番号5-③	5 百万円	1 百万円 (一般財源) 4 百万円 (東北観光復興対策交付金 (観光庁))
令和3年度	1,544 百万円	事業番号1-①	53 百万円	18 百万円 (一般財源) 35 百万円 (クラスター補助金 (文化庁))
		事業番号1-②	3 百万円	1 百万円 (一般財源) 2 百万円 (クラスター補助金 (文化庁))
		事業番号1-③	250 百万円	250 百万円 (一般財源)
		事業番号1-④	1,193 百万円	250 百万円 (一般財源) 489 百万円 (地方債) 454 百万円 (都市再編集 中支援事業費補助金 (国土交通省))
		事業番号1-⑤	15 百万円	15 百万円 (一般財源)
		事業番号2-①	18 百万円	6 百万円 (一般財源) 12 百万円 (クラスター補助金 (文化庁))
		事業番号2-②	4 百万円	2 百万円 (一般財源) 2 百万円 (クラスター補助金 (文化庁))
		事業番号3-①	1 百万円	0.4 百万円 (一般財源) 0.6 百万円 (クラスター補助金 (文化庁))
		事業番号3-②	3 百万円	1 百万円 (一般財源) 2 百万円 (クラスター補助金 (文化庁))
		事業番号4	1 百万円	0.4 百万円 (一般財源) 0.6 百万円 (クラスター補助金 (文化庁))

		事業番号5-①	3百万円	1百万円(一般財源)	2百万円(クラスター補助金(文化庁))
令和4年度	67百万円	事業番号1-①	5百万円	2百万円(一般財源)	3百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号1-②	3百万円	1百万円(一般財源)	2百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号1-⑤	15百万円	15百万円(一般財源)	
		事業番号2-②	4百万円	2百万円(一般財源)	2百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号3-①	1百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号3-②	5百万円	2百万円(一般財源)	3百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号4	1百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号5-①	8百万円	3百万円(一般財源)	5百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号5-②	25百万円	9百万円(一般財源)	16百万円(クラスター補助金(文化庁))
令和5年度	51百万円	事業番号1-①	5百万円	2百万円(一般財源)	3百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号1-②	9百万円	3百万円(一般財源)	6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号1-⑤	15百万円	15百万円(一般財源)	
		事業番号2-②	4百万円	2百万円(一般財源)	2百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号3-①	1百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号4	1百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号5-①	1百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号5-②	15百万円	5百万円(一般財源)	10百万円(クラスター補助金(文化庁))
令和6年度	36百万円	事業番号1-①	5百万円	2百万円(一般財源)	3百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号1-②	9百万円	3百万円(一般財源)	6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号1-⑤	15百万円	15百万円(一般財源)	
		事業番号2-②	4百万円	2百万円(一般財源)	2百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号3-①	1百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号4	1百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(クラスター補助金(文化庁))
		事業番号5-①	1百万円	0.4百万円(一般財源)	0.6百万円(クラスター補助金(文化庁))
合計	1,744百万円				

国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8. 計画期間

令和2年度～令和6年度までの5年間